

科目名	通信工学Ⅱ	英語科目名	Communication Engineering II		
開講年度・学期	平成 28 年度・後期	対象学科・専攻・学年	電子制御工学科 5 年		
授業形態	講義	必修 or 選択	選択		
単位数	2	単位種類	学修単位（講義 A）		
担当教員	飯島 洋祐	居室（もしくは所属）	電気電子創造工学科棟 3F		
電話	内線 262	E-mail	yijima@小山高専ドメイン		
授業の到達目標		授業到達目標との対応			
		小山高専の 教育方針	学習・教育 目標 (JABEE)	JABEE 基 準要件	
		(1) 標準化定理について理解し、説明ができる。	④	A	d-1、g
		(2) デジタル変調および伝送方式について説明ができる。	④	A	d-1、g
		(3) アナログテレビ放送方式について理解し、説明ができる。	④	A	d-1、g
(4) デジタル放送方式について理解し、説明ができる。		④	A	d-1、g	
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法					
達成目標（1）：期末試験および提出課題の提出率と達成度の総合で評価する。					
達成目標（2）：期末試験および提出課題の提出率と達成度の総合で評価する。					
達成目標（3）：期末試験および提出課題の提出率と達成度の総合で評価する。					
達成目標（4）：期末試験および提出課題の提出率と達成度の総合で評価する。					
評価方法					
期末試験の成績（70%）と、提出課題の提出率（15%）および達成度（15%）で評価する。					
授業内容		授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間	
アナログからデジタルへ		教科書第 7 章の事前学習とポイントの復習 教科書第 7 章の事前学習とポイントの復習 教科書第 7 章の事前学習とポイントの復習 教科書第 8 章の事前学習とポイントの復習 教科書第 8 章の事前学習とポイントの復習 教科書第 8 章の事前学習とポイントの復習 教科書第 9 章の事前学習とポイントの復習		計 3 0 時間	
第 1 週目 標準化定理とパルス変調					
第 2 週目 サンプリングと A/D 変換					
第 3 週目 デジタル変調方式					
第 4 週目 デジタル伝送の効率化					
第 5 週目 誤り訂正技術					
第 6 週目 多重化技術					
第 7 週目 移動体通信					
第 8 週目 まとめ		・第 1 週目から第 7 週目までの内容をまとめ、レポートとして提出する。		5 時間	
テレビジョン		教科書第 1 1 章の事前学習とポイントの復習 教科書第 1 1 章の事前学習とポイントの復習 配布資料の事前学習とポイントの復習 配布資料の事前学習とポイントの復習 配布資料の事前学習とポイントの復習 配布資料の事前学習とポイントの復習 配布資料の事前学習とポイントの復習		計 2 0 時間	
第 9 週目 アナログテレビ（1）					
第 10 週目 アナログテレビ（2）					
第 11 週目 デジタルテレビ（1）					
第 12 週目 デジタルテレビ（2）					
第 13 週目 デジタルテレビ（3）					
第 14 週目 通信技術の動向					
第 15 週目 まとめ		・第 9 週目から第 1 4 週目までの内容をまとめ、レポートとして提出する。		5 時間	
定期試験					
		自学自習時間合計		6 0 時間	
キーワード	標準化、量子化、ディジタル変調、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送				
教科書	木村磐根「通信工学概論」オーム社				
参考書	—				
カリキュラム中の位置づけ					
前年度までの関連科目		通信工学 I			
現学年の関連科目		—			
次年度以降の関連科目		—			
連絡事項					
・授業前には、必ず教科書に目を通し、事前学習をすること。事前学習を前提に授業を進める。					
・課題等のレポートについては、図や文章を丁寧に書くこととし、読めないものはレポートとして認めない。また、Wikipedia 等のインターネットの情報の丸写し等はレポートとして認めない。					
シラバス作成年月日	2016 年 2 月 29 日作成				